

専門医研修施設更新認定証を交付する。

第46条（研修施設資格の喪失） 以下の項目に該当する場合は研修施設資格を喪失する。

1. 研修施設要件を満たさなくなつて12か月経過した場合。
2. 施設が認定を辞退した場合。
3. 資格の更新手続きを行わなかった場合。

第47条（資格の取り消し） 本学会認定研修施設として不適当と認めた場合は委員会と理事会において公平な審査を行った後、議決により資格を取り消すことができる。

第15章 疑義・守秘・公示

第48条（疑義） 認定および資格取消しに関する疑義は、書面をもって理事長に行なうものとする。理事長は委員会の議を経て6か月以内に書面をもってその結果を回答しなければならない。

2. 資格の取消しにあたっては、当該人または施設に弁明の機会を与えなければならない。

第49条（守秘） 本学会は申請書および報告書の内容について、その秘密を守る義務を負うものとする。

2. 提出された申請書、報告書およびその複写は学会がこれらを保管するものとする。
3. 書類の複写は、審査の目的に限るものとし、複写はその年度の一連番号を付し、使用後は回収しなければならない。
4. 関係者は、職務上知り得たこれらの書類の内容を他に洩らしてはならない。

第50条（公開） 申請書および報告書の内容の公開は、統計の形式に限るものとし、本学会機関誌に掲載するものとする。

2. 会員は学術研究の目的で内容の公開を求めることができる。
3. 統計の実施と内容は、その都度理事会の審議決定を経なければならない。

第51条（公示） 本学会は下記の項目について決定した場合は、速やかに本学会機関誌およびホームページに公表する。

1. 委員会委員の氏名および所属施設
2. 専門医研修認定施設の施設名および所在地
3. 指導医・暫定指導医の氏名、および所属施設
4. 専門医の氏名および所属施設
5. 小児がん認定外科医の氏名および所属施設

第16章 規則の改正または改訂

第52条（規則の改正） 本規則の改正には理事会、総会の承認を得るものとする。

2. 本規則の軽微な訂正や基本的内容に関わらない追加は理事会の承認を得るものとする。

補則

1. 本規則の施行に伴う施行細則を別途定める。
2. 施行細則の改正は委員会が起案し理事会の承認を受ける。

3. 本規則の施行に関して、委員会及び理事会によって決定された事項は、本学会ホームページや本学会機関誌などに掲載し公開する。

付則

1. 本規則は、平成23年4月1日より施行する。
2. 本学会開始時の学会員歴条件は旧日本小児血液学会または旧日本小児がん学会の会員歴を認めるものとする。
3. (暫定指導医の認定) 本規則施行日から2年間に限り、本学会は専門医を育成するために小児血液疾患および小児がん領域に関する十分な学識と経験を有し、以下の要件をすべて満たす者を暫定指導医として認定する。
 - 1) 基本領域の学会の専門医であること。
 - 2) 通算8年以上の旧日本小児血液学会または旧日本小児がん学会の会員歴があり、10年以上の小児血液および小児がん臨床および研究の経験を有すること。
 - 3) がん治療認定医(暫定教育医を含む)、または、血液専門医であること。
 - 4) 細則第12条に定める臨床経験を有していること。
 - 5) 細則第14条に定める専門領域の学会発表、および論文があること。
 - 6) 細則付則3に定める申請料を期日までに納入できること。
4. (暫定指導医の認定申請) 暫定指導医の認定を受けようとする者は、申請料を期日までに納入し、細則付則4に定める書類を委員会宛に提出する。
5. (暫定指導医資格の審査) 委員会は、専門医・指導医資格審査部会にて付則4の規定に基づいて申請者の書類審査を行い、その結果をもとに判定し暫定指導医を理事会に推薦する。
6. (認定料の納付、および、認定証の交付) 理事会は委員会により推薦された者に対し暫定指導医として承認を与える。理事長は申請者に合否を通知し、合格者には細則付則3に定める認定料が期限までに学会に振り込まれたことを確認した後、暫定指導医認定証を交付する。ただし、正当な理由がなく、合格通知後3か月以内に納付されない場合は、取得資格を喪失する。
7. (暫定指導医の認定期間と更新) 暫定指導医の認定期間は10年間とし、更新はしない。
8. (暫定指導医から指導医への移行) 暫定指導医は、認定期間内に専門医に合格することで指導医になることができるものとする。その際、認定料は免除されるものとする。
9. (暫定指導医が専門医・指導医となるための要件)
 - 1) 暫定指導医であること(暫定指導医である年限を問わない)。
 - 2) 小児科専門医であること。
 - 3) がん治療認定医、または血液専門医であること。
 - 4) 学会年会費を完納していること。
 - 5) 細則第12条に定める臨床経験を有していること。
 - 6) 細則第6条に定める学会・教育セミナーに出席し、細則付則5に定める研修単位数を満たすこと。
 - 7) 細則第15条に定める専門領域の学会発表、および論文があること。
 - 8) 細則第10条に定める申請料を期日までに納めること。
 - 9) 本学会が行う専門医試験に合格すること。
10. (暫定指導医資格の喪失) 暫定指導医は次の場合資格を喪失する。
 - 1) 本人から辞退届けが提出された場合
 - 2) 本学会を退会した場合
 - 3) 医師資格を喪失した場合
 - 4) 申請書類の資格要件の記載に虚偽が認められた場合(委員会の審査を経る)
11. (暫定指導医資格の取り消し) 本学会指導医として看過できない行為があった者は委員会と理事会において公平な審査を行った後、議決により暫定指導医資格を取り消すことができる。

12. (専門医研修施設の暫定認定要件) 本規則施行日から5年間を目途に、規則第40条に定める専門医研修施設の要件の2項から4項については、以下をもって専門医研修施設の認定要件を満たすものとする。
- 1) 小児がん認定外科医は小児外科専門医で可とする。また、常勤でなく、非常勤または診療協力施設でも可とする
 - 2) 日本医学放射線学会放射線診断専門医または放射線治療専門医は、常勤でなく、非常勤または診療協力施設でも可とする。
 - 3) 日本病理学会病理専門医は、非常勤でも可とする。
13. 本規則は、5年ごとに見直すものとする。

日本小児血液・がん学会専門医制度施行細則 ver. 1.0

第1条 日本小児血液・がん学会専門医制度施行細則（以下細則という）を定める。

第2条（事務） 専門医制度委員会（以下委員会）の事務は、本学会事務局において行う。

第3条（申請期間） 小児血液・がん専門医（以下、専門医）、小児血液・がん指導医（以下、指導医）、小児がん認定外科医（以下、認定外科医）、小児血液・がん専門医研修施設（以下、専門医研修施設）の申請および更新書類の提出期間は、次の規定による。ただし、施行開始年における申請期間は別途定める。

- 1) 専門医、指導医、認定外科医、専門医研修施設の新規申請は、毎年4月1日から4月30日までとする。
- 2) 専門医、指導医、認定外科医、専門医研修施設の更新申請は、認定期間終了年の前年11月1日から当年3月31日までとする。更新時期の半年前に、委員会より更新通知を送付するものとする。

第4条（認定資格の発効） 承認された専門医、指導医、認定外科医、専門医研修施設の資格は、4月1日付で発効する。

第5条（専門医認定申請） 小児血液・がん専門医の認定申請にあたっては下記の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 専門医認定試験受験申請書（所定の様式）
- 2) 履歴書（勤務施設および職名）。ただし、5年以上の小児科臨床に従事したことを示す内容であること（所定の様式）。
- 3) 小児科専門医認定証の写し
- 4) がん治療認定医、または、血液専門医の認定証の写し
- 5) 専門医研修施設における専門医研修修了証明書（所定の様式）
- 6) 研修カリキュラム評価表（所定の様式）
- 7) 研修実績記録（所定の様式） 細則第6条に示す本学会が指定する学会、セミナーへの出席記録（参加証の写しを添付）、これらの合計研修単位は100単位以上であること
- 8) 学術業績リスト（所定の様式） 細則第7条に示す学会発表3件（抄録の写しを添付、筆頭演者としての発表1件以上を含むこと）、および論文リスト3件（論文表紙（表題、著者、所属、要約を含む）の写しを添付、筆頭著者としての原著論文1編以上を含むこと）
- 9) 臨床経験記録（所定の様式） 細則第8条に定める経験症例30例の一覧とそのうちの15例の個別症例票（各施設の指導医の自筆署名を添えて提出すること）
- 10) 申請料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写しを提出すること、既納の申請料は原則として返却しない

第6条 (研修単位) 研修実績として認定する学会やセミナー、およびその研修単位は、以下の通りとする。

	出席
本学会学術集会 (2回以上必須)	10単位
本学会主催教育セミナー	10単位
本学会学術集会教育セッション	5単位
日本血液学会学術集会	10単位
日本小児外科学会学術集会	10単位
日本癌学会	5単位
日本癌治療学会	5単位
日本血栓止血学会	5単位
日本造血細胞移植学会	5単位
日本輸血細胞治療学会	5単位
国際小児がん学会 (SIOP)	10単位
米国臨床腫瘍学会 (ASCO)	5単位
米国癌学会 (AACR)	5単位
欧州臨床腫瘍学会 (ESMO)	5単位
米国血液学会 (ASH)	5単位
欧州血液学会 (EHA)	5単位
欧州造血細胞移植学会 (EBMT)	5単位
その他の小児血液・小児がん関連学会・研究会※	2～5単位 (国際学会5単位)

※：その他の小児血液・小児がん関連学会・研究会については、別途申請・審査する。

第7条 (学術業績：専門医) 学術業績は、細則第6条に示す本学会が指定する学会やセミナーでの発表、およびpeer review systemのある学術雑誌に掲載された論文 (症例報告を含む) を各3件ずつ記載する。

2. 学会発表は、直近の5年間の小児血液、小児がんに関する学会発表に限る。筆頭演者としての発表を1件以上含まなければならない。筆頭演者には誌上発表は含まない。
3. 論文は、直近の5年間の血液学・小児腫瘍学に関連した論文 (症例報告を含む) に限る。筆頭著者としての原著論文を1件以上含まなければならない。学会抄録は論文には含まない。

第8条 (臨床経験：専門医) 診療チームの一員として診断・治療を行った症例のうち重複しない30例の症例一覧を所定の様式に記入し、そのうち15例を個別症例票に記載する。診療チームの一員とは、診断や治療の方針決定に参加し、治療中に治療指示や病状説明を行った者をいう。

- 1) 診療チームの一員として入院治療にあたった症例のうち、以下のものを1例として算定できる。ただし、腫瘍性疾患については専門医研修施設で経験 (診断および治療) した症例でなければならない。しかし、非腫瘍性血液疾患あるいは造血幹細胞移植については、指導医のもとで経験した症例であれば施設を問わない。

(1) 腫瘍性疾患 (造血器腫瘍および固形腫瘍)

- ① 初発未治療患者の診断と治療
- ② 再発患者の再発直後の治療入院
- ③ 終末期

(2) 非腫瘍性血液疾患 (先天性・後天性凝固障害、鉄欠乏性貧血を除く赤血球疾患、非腫瘍性白血球系疾患、血小板異常、輸血合併症、免疫不全症など)

- ① 初発未治療患者の診断と治療 (外来での研修も含む)

② 合併症や特殊治療

例：感染症のための入院、造血幹細胞移植、出血性疾患では手術や外科的治療の止血管理のための入院、免疫学的治療など特殊な治療での入院、外来での止血管理

(3) 同種造血幹細胞移植症例

2) 必要経験症例数を以下のように定める。

(1) 造血器腫瘍 10例以上

(2) 固形腫瘍 10例以上

(3) 非腫瘍性血液疾患 5例以上

(4) かつ上記および同種造血幹細胞移植症例の合計が30例以上とする。

3) 個別症例票の15例には、以下の疾患を各1例以上含めること。ただし、施行開始5年間は付則に定める暫定措置に従うものとする。

急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、小児外科腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、胚細胞腫瘍のうち一つ）、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、鉄欠乏性貧血を除く赤血球疾患、血小板異常、凝固異常、同種造血幹細胞移植症例

第9条（専門医試験）試験は筆記試験と口頭試問とする。

2. 研修セミナーテキスト、指定教科書を設定し、その内容に準拠した試験とする。

3. 口頭試問は、主に、提出された臨床経験記録の症例について行う。

第10条（専門医認定・認定外科医認定の申請料、認定料、更新料）専門医認定・認定外科医認定の申請料、専門医・認定外科医の認定料、専門医・認定外科医資格の更新料は、それぞれ2万円とする。既納の申請料、認定料、更新料は原則として返却しない。

第11条（専門医資格の更新申請手続き）専門医資格更新の申請には、次の書類を委員会宛に提出する。

1) 専門医資格更新申請書（様式）

2) 研修実績記録（所定の様式）細則第6条に示す本学会が指定する学会、セミナーへの出席記録（参加証の写しを添付）、これらの合計研修単位は100単位以上であること

3) 学術業績リスト（所定の様式）細則第7条に示す学会発表3件（抄録の写しを添付。ただし、筆頭著者としての発表は必ずしも必要としない。）、および論文リスト3件（論文表紙（表題、著者、所属、要約を含む）の写しを添付。ただし、筆頭著者の原著論文は必ずしも必要としない。)

4) 臨床経験記録（所定の様式）細則第12条に示す経験症例の一覧（各施設の指導医の自筆署名を添えて提出すること）

5) 更新料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写しを提出すること。

第12条（臨床経験：小児血液・がん専門医資格更新時）直近の5年間に小児血液疾患または小児がん症例を20例以上経験（診断および治療）していること。経験症例の疾患領域は問わない。

第13条（指導医認定申請）指導医の認定を申請する者は、下記の書類を委員会宛に提出する。

1) 指導医認定申請書（様式、本学会専門医認定番号を含む）

2) 履歴書（勤務施設および職名）。ただし、10年以上の小児血液および小児がん臨床および研究に従事したことを示す内容であること。

3) 推薦書 指導医または暫定指導医2名により署名された指導医推薦書。

4) 学術業績リスト（所定の様式）細則第14条に示す学会発表（抄録の写しを添付）および論文のリスト（論文表紙（表題、著者、所属、要約を含む）の写しを添付）

第14条 (学術業績：指導医) 指導医認定に必要な業績は以下のものである。

- 1) 直近の5年間に細則第6条に示す本学会が指定する学会での共同演者を含む発表5回があること。誌上発表は含まない。
- 2) 小児血液、小児がんの臨床または橋渡し研究に関連した、筆頭論文5件があること。総説も可とする。学会抄録は含まない。

第15条 (指導医資格の更新) 指導医資格の更新は、専門医の資格更新手続きと同時にを行うものとし、細則第11条に示す書類に加えて以下の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 指導医資格更新申請書 (様式)
- 2) 学術業績リスト (所定の様式) 細則第11条3) に示す学会発表3件に加えさらに2件の学会発表リスト (抄録の写しを添付)。

第16条 (認定外科医認定申請) 小児がん認定外科医の認定申請にあたっては、下記の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 小児がん認定外科医認定申請書 (様式)
- 2) 小児外科専門医認定証の写し
- 3) がん治療認定医認定証の写し (暫定教育医認定証を含む)
- 4) 研修実績記録 (所定の様式) 細則第6条に示す本学会が指定する学会、セミナーへの出席記録 (参加証の写しを添付)、これらの合計研修単位は100単位以上であること
- 5) 学術業績リスト (所定の様式) 小児がんに関する学会発表3件 (抄録の写しを添付、筆頭演者としての発表1件以上を含むこと)、および論文リスト3件 (論文表紙 (表題、著者、所属、要約を含む) の写しを添付、筆頭著者としての論文1編以上を含むこと)
- 6) 臨床経験記録 (所定の様式) 細則第17条に示す経験症例20例の一覧とそのうち腫瘍摘出術3例を含む5例の個別症例票 (各施設の指導医の自筆署名を添えて提出すること)
- 7) 申請料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写しを提出すること。既納の申請料は原則として返却しない。

第17条 (臨床経験：認定外科医申請時) 小児がん症例に関する全身麻酔下手術を20例以上経験していること。

- 1) 20例中、執刀医または指導助手として腫瘍摘出術10例 (うち5例は部分切除、生検を可とする) を必須条件とする。
- 2) 悪性腫瘍摘出術に準ずる良性腫瘍摘出術を合計5例まで算入することができる。

第18条 (認定外科医資格の更新申請手続き) 小児がん認定外科医資格更新の申請には、次の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 小児がん認定外科医資格更新申請書 (様式)
- 2) 研修実績記録 (所定の様式) 細則第6条に示す本学会が指定する学会、セミナーへの出席記録 (参加証の写しを添付)、これらの合計研修単位は50単位以上であること
- 3) 学術業績リスト (所定の様式) 直近5年間の小児がんに関する学会発表3件 (抄録の写しを添付。ただし、筆頭演者としての発表は必ずしも必要としない。)、および論文リスト1件 (論文表紙 (表題、著者、所属、要約を含む) の写しを添付。ただし、筆頭著者の原著論文は必ずしも必要としない。)
- 4) 臨床経験記録 (所定の様式) 細則第19条に示す経験症例の一覧 (各施設の外科部門責任者の自筆署名を添えて提出すること)
- 5) 更新料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写しを提出すること。

第19条 (臨床経験：認定外科医資格更新時) 直近の5年間に小児がん認定外科医として、小児がん症例

に関する全身麻酔下手術を10例以上経験していること。

- 1) 経験症例10例中、執刀医または助手として5例以上の悪性腫瘍摘出術または生検を必須条件とする。
- 2) 悪性腫瘍摘出術に準ずる良性腫瘍摘出術を合計3例まで算入することができる。

第20条（専門医研修施設認定の申請）専門医研修施設認定を申請する施設は、以下の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 専門医研修施設認定申請書（様式）
- 2) 施設概要書（様式）
- 3) 指導医・暫定指導医在籍証明書（様式）
- 4) 小児がん認定外科医（当面は小児外科専門医）、放射線診断専門医または放射線治療専門医、病理専門医の在籍証明書（様式）
- 5) 診療協力施設証明書（様式）
- 6) 診療実績報告書（様式） 細則第8条1項に示す研修対象疾患（1症例1疾患とする。ただし、造血幹細胞移植はこの限りでない）の直近の3年間（1月～12月）の初発症例の一覧（細則第22条の診療実績を満たすこと）を記載し提出する。
- 7) 研修カリキュラム（様式）

第21条（研修カリキュラム）専門医研修施設は、本学会が定める「専門医研修カリキュラム作成要項」に準拠した研修カリキュラムを策定し、専門医研修施設認定申請および更新時に提出する。

第22条（診療実績）専門医研修施設は、3年間に下記に示す診療実績がなければならない。初発症例は、すべて本学会の小児がん全数把握登録事業、または、小児血液疾患登録事業に登録されていなければならない。造血幹細胞移植症例は、すべて造血細胞移植登録一元管理プログラム TRUMP に登録されていなければならない。

- 1) 造血器腫瘍初発症例10例以上、または固形腫瘍初発症例10例以上
- 2) 非腫瘍性血液疾患初発症例（先天性・後天性凝固障害、鉄欠乏性貧血を除く赤血球疾患、非腫瘍性白血球系疾患、血小板異常など）の実績があれば合計に加算する。
- 3) 造血幹細胞移植の実績があれば合計に加算する。
- 4) 上記の合計が30例以上とする。

第23条（専門医研修施設資格の更新手続き）専門医研修施設資格の更新を申請する施設は、以下の書類を委員会宛に提出する。

- 1) 専門医研修施設資格更新申請書（様式）
- 2) 施設概要書（様式）
- 3) 指導医・暫定指導医在籍証明書（様式）
- 4) 小児がん認定外科医（当面は小児外科専門医）、放射線診断専門医または放射線治療専門医、病理専門医の在籍証明書（様式）
- 5) 診療協力施設証明書（様式）
- 6) 診療実績報告書（様式）
- 7) 研修カリキュラム（様式）
- 8) 研修カリキュラム実施証明書（様式）

付則

1. 本細則は、平成23年4月1日より施行する。
2. （専門医認定申請時の個別症例票の暫定措置）施行開始5年間は、細則第8条に定める個別症例票の1.5例には、造血器腫瘍（急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫のいずれかを3例）、

固形腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、胚細胞腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍のいずれかを3例）、非腫瘍性血液疾患（赤血球疾患〔鉄欠乏性貧血を除く〕、血小板異常、凝固異常のいずれかを3例）、同種造血幹細胞移植症例1例を含むものとする。

3. (小児血液・がん暫定指導医申請料・認定料) 小児血液・がん暫定指導医（以下、暫定指導医）の申請料・認定料は各2万円とする。既納の申請料・認定料は原則として返却しない。
4. (暫定指導医の認定申請) 暫定指導医の認定を受けようとする者は下記の書類を委員会宛に提出する。
 - 1) 暫定指導医認定申請書（様式）
 - 2) 小児科専門医の認定証の写し
 - 3) がん治療認定医（暫定教育医を含む）、または、血液専門医の認定証の写し
 - 4) 履歴書（勤務施設および職名）。ただし、10年以上の小児血液および小児がん臨床および研究に従事したことを示す内容であること。
 - 5) 学術業績リスト（所定の様式） 細則第14条に示す学会発表（抄録の写しを添付）および論文のリスト（論文表紙（表題、著者、所属、要約を含む）の写しを添付）
 - 6) 臨床経験記録（所定の様式） 細則第12条に示す経験症例の一覧
 - 7) 申請料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写し。
5. (暫定指導医用の専門医・指導医認定申請) 暫定指導医が専門医・指導医の認定申請するときは下記の書類を委員会宛に提出する。
 - 1) 専門医認定試験受験申請書（所定の様式）
 - 2) 指導医認定申請書（所定の様式、本学会暫定指導医認定番号を含む）
 - 3) 小児科専門医認定証の写し
 - 4) がん治療認定医、または、血液専門医の認定証の写し
 - 5) 研修実績記録（所定の様式） 細則第6条に示す本学会が指定する学会、セミナーへの出席記録（参加証の写しを添付）、これらの合計研修単位は100単位以上であること
 - 6) 学術業績リスト（所定の様式） 細則第11条および細則第15条に示す学会発表（抄録の写しを添付）、および論文のリスト（論文表紙（表題、著者、所属、要約を含む）の写しを添付）
 - 7) 臨床経験記録（所定の様式） 細則第12条に示す経験症例の一覧
 - 8) 申請料2万円を期日までに所定の口座へ振り込み、領収書の写し。